

## 「1950年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」校注

森脇優紀・福田名津子校注、小島浩之解題

### 解題

アダム・スミス文庫（以下「スミス文庫」）は、経済学の祖と呼ばれるアダム・スミスの旧蔵書約300冊からなるコレクションで、今からちょうど99年前に新渡戸稲造がイギリスで購入し、経済学部創設の記念に本学部に寄贈されたものである。

「スミス文庫」に関して、受入れ経緯や1950年代の修理記録、さらにはコレクションの増加などに関して、1950年代の状況をノートに書き留めたものが、ここに掲げる「1950年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」である。

もっともこの資料名は、今回の公表にあたり整理者の立場から付与したものであって、実際の資料にこの名称が記されているわけではない。本来の資料名が不詳なのは、この資料の原本が所在不明となっているためである。幸運にも一橋大学にこのノートのコピーが残されており、10数年前にこれを入手したものが、東京大学経済学部資料室に残されているだけである。

コピーはB4判で全9枚あり、ノートを見開きで電子複写したものと考えられる。表紙や背、さらにはノートの他の箇所のコピーは残されていないので、ノートの全体像や名称は不明である。さらに残念なことに、ノートの前小口と地の部分はコピーミスで、文字が全て入り切らないままに複写されてしまっている。このため、文字の一部が欠けたり、欠字になったりしている部分がある。

内容から判断するに、1950年代の「スミス文庫」の大修理に関連して、当時の教員以外の東京大学経済学部の関係者が記録したものと考えられ、個人のメモというより職務として書かれたものと

判断される。

このように、歴史資料としては不完全な部分が多々あったため、正確な内容把握のためには原本の発見が第一であると考えられた。このため、この10年の間に八方手を尽くしてはみたものの、現時点で原本の所在は突き止められていない。

一方で、本年、経済学部が創設100年を迎えることや、2020年には「スミス文庫」の寄贈から100年となることなどから、貴重な記録をこのまま埋没させておくのも憚られ、原本不明のままであっても、節目となるこの時期に、テキストを校訂して注釈を付した上で公表することとした。

記録からは1950年代に、貴重資料の保存に関して原形保存の原則（「原形保持」）を徹底しようとする、経済学部内の意気込みが感じられる。また修理前の状況の写真撮影（本稿附録参照）、この覚書のような修理記録の作成、さらには「重点主義」と表現される優先順位の付与など、現在の資料保存の考え方に通底する方針が、1950年代に実践されていたことに、驚嘆せざるを得ない。

修理を担当した服部政祐は、明治期に製本技術を取得したほぼ最後の世代に当たると考えられる。このため、この覚書の内容と「スミス文庫」の書籍に残る修理の痕跡を突き合わせることで、パターンソンに始まるわが国の洋装製本技術の系譜の一端を明らかにできる可能性を秘めている。

このように、この記録は、経済学の至宝である「スミス文庫」を守ろうとした、1950年代における経済学者や図書館職員の奮闘の記録であるとともに、日本の資料保存や製本技術の歴史にとっても第一級の資料といえるのである。

## 凡例

- ・ 本稿は東京大学経済学部資料室蔵「1950年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」を底本として、そのテキストを校訂し注釈を付したものである。
- ・ 校注は森脇優紀と福田名津子が中心となっており、解題は小島浩之が担当したが、いずれも内容に関しては東京大学経済学部資料室員の校閲を経ている。
- ・ 字体や改行は可能なかぎり原本に忠実に再現したが、略字が用いられている箇所について、そのままの再現が不可能な場合には、本文中は常用漢字に書き換え、略字については注記で説明した。
- ・ 原文の文字が判読不能な箇所について、推定可能な文字は [ ] 内に入れて補記し、推定不能なものは ≡ とした。
- ・ 原文が改頁されている部分は———により示した。
- ・ 原文の誤植についてはママあるいは[sic.]として、必要に応じて正しい形を補ったり注釈で説明を加えた。
- ・ 原則として各頁の左側 2/3 に原文テキストを、右側 1/3 に注釈を配置した。ただし、冒頭の伝来図に関する注釈および、本覚書作成以後に「スミス文庫」として追加された書誌情報と入手の経緯については、本稿末尾に補注として示した。

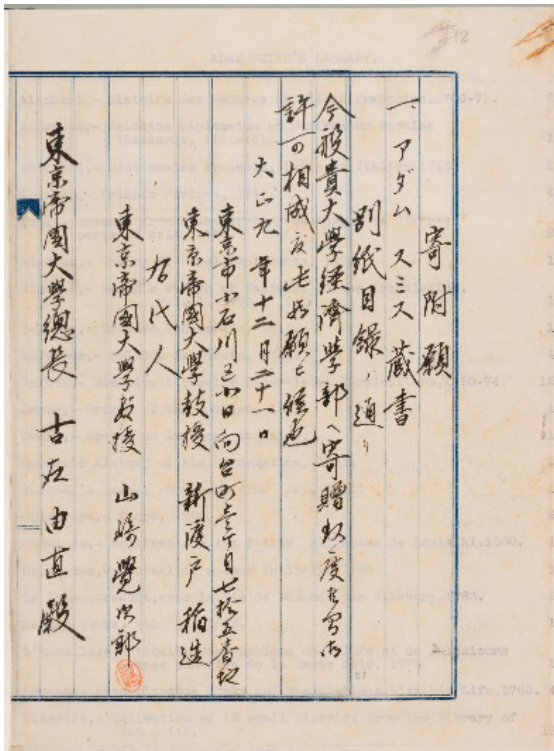
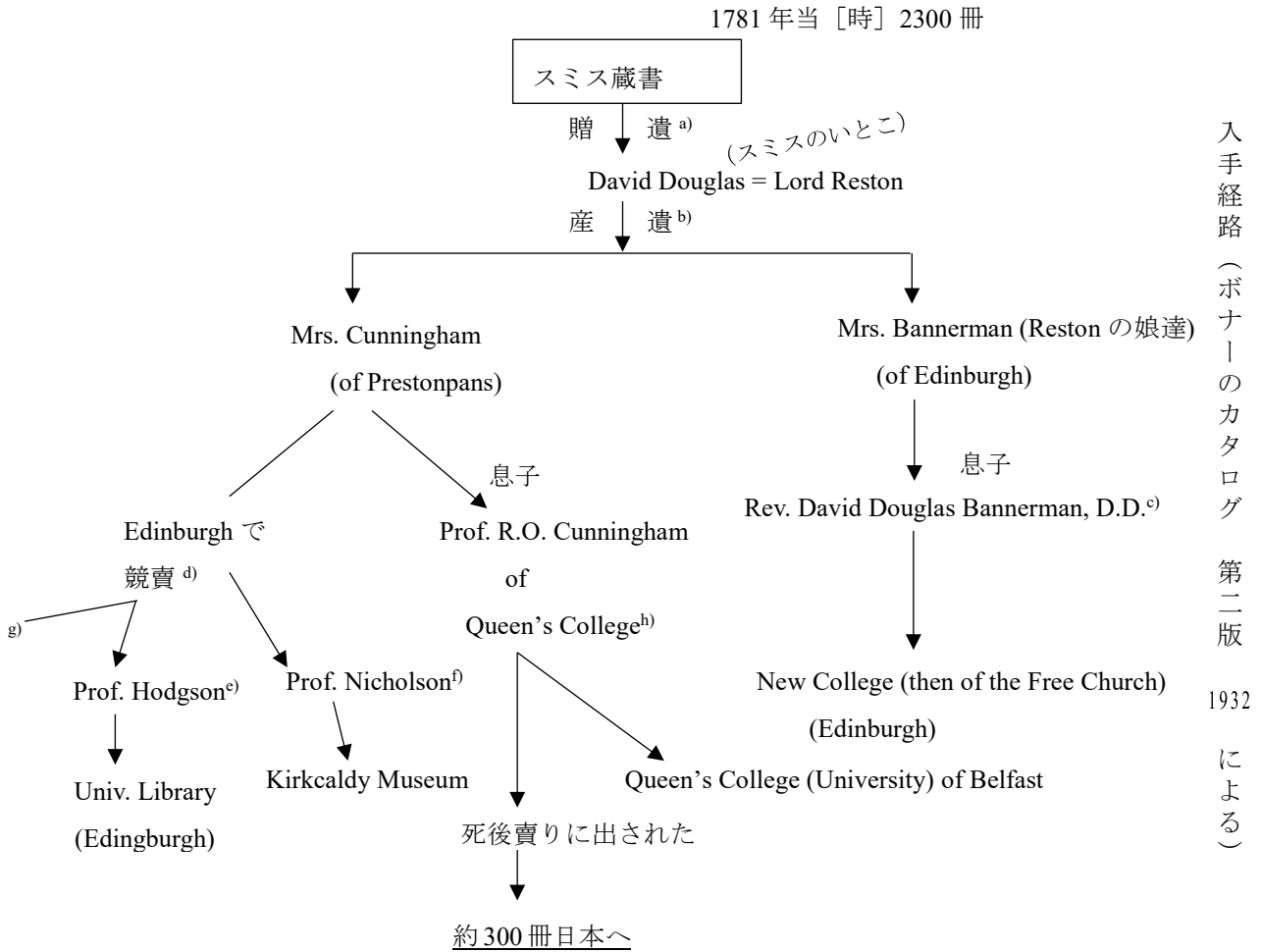


写真1 寄附願（控）



写真2 「アダム・スミス文庫」収納ロッカー



購入・保存

当「アダム・スミス文庫」は、故新渡戸稲造教授が、1920年ロンドンに滞在中、偶々書肆 Messrs. Dulau & Co. Ltd. のカタログによつて、賣りに出されていることを発見され、直に赴いて購入、東大の経済〔学部〕創設に際し寄贈されたもの<sup>1)</sup>で、總數 141 点 (303〔冊〕)<sup>2)</sup>を納める。

之等の書物は新渡戸教授の指示により<sup>3)</sup>、Messrs. Dulau & Co. Ltd. から六つの箱につめて、次のような証明〔書〕を添えて送つて来た<sup>4)</sup> (この証明書の在處不明)

“At the death of Adam Smith, his library went by will to David Douglas, afterwards Lord Resto[n]. On Lord Reston’s death the library was divided between his two daughters, Mrs. Cunningham and Mrs. Bannerman. Mrs. Cunningham gav[e] her portion to her son Professor Cunningham, Queen’s College, Belfast. After the death of Professor Cunningham the library was sold in 1918 to Messrs. Dulau & Co Ltd., London from whom Dr. I. Nitobe purchased it in Jul[y] 1920.

Dulau & Co. Ltd.

Fw. Chaundy, Director.”

1923年関東大震災火災に際しては経済学部の書も延焼を免れなかつたが、同学部小使二人の勇敢〔な〕働きにより当文庫の書物は全部窓から投げ出され焼失を免れた<sup>5)</sup>。

研究室が現在の建物<sup>6)</sup>になつてからは、三階貴重品格〔納〕室に備付けたロッカー内<sup>7)</sup>に保存されている。

第二次世界大戦中には空襲を避ける為、山梨県〔甲府市図書館〕<sup>8)</sup> = = =

東大は爆撃も延焼も受けず 疎開した書物も全部失われずに戻つたが、この二度の災害の際の、(止むを得ざる)粗暴な處置と頻繁な移動の為、破損は甚しかつた。

【注釈】

<sup>1)</sup> 新渡戸稲造は、大正 9 (1920) 年 12 月 21 日付で、東京帝国大学総長・古在由直宛に、アダム・スミス旧蔵書の寄附願を作成している(同僚の山崎覚次郎が代筆)。その控えが東京大学経済学部資料室に残されている(写真 1 参照)。

<sup>2)</sup> ここでいう「点」(別頁では「部」)はタイトル数、「冊」は物理単位数を示している。本稿注釈では、「点」および「部」を「タイトル数」と表記する。  
2019 年 2 月現在の総数は、150 タイトル 315 冊である。

<sup>3)</sup> 新渡戸がロンドンから、山崎覚次郎に宛てた手紙(1920 年 7 月 23 日付)には、「拜啓益々御清穆之段奉賀候(中畧)不圖數日前當市書肆 Dulau & Co. の目録に依りアダムスミスの蔵書三百餘冊が賣物となり居るを承知致候、右は御承知の Bonar の “List of the Books in the Library of Adam Smith” 中に掲げられたる物の一部にて今日實際上の御参考にはならずとも經濟學者の寶物とも申すべきものと被存候に付右を新設經濟學部へ寄贈致度候、就ては本日右書肆より直接貴學部宛書籍箱入六箱發送為致候間到着の上は何卒可然御取計ひ被成度候、實は拙者儀購入申込後可なり諸方面より希望出で殊に蘇國の某大學より切なる望も有之候へ共幸に拙者の手に落ち候故愈々日本の持物と相成り又帝大の一の誇とも相成候事は甚だ愉快に存候(下畧)」とあり、当時どのようにして送付されたのか、また購入が叶った際の新渡戸の喜びの感情がみてとれる(山崎覚次郎「アダム、スミス遺愛の圖書(新渡戸教授より寄贈せらる)」『経友』2、1921 年、1 頁。以下、山崎 1921 と略記)。

なお、新渡戸の他に購入を希望した「蘇國の某大學」というのは、グラスゴー大学であつたようである(アダム・スミスの会・大河内一男編『アダム・スミスの味』東京大学出版会、1965 年、197 頁。以下、『アダム・スミスの味』と略記)。

<sup>4)</sup> 1920 年 10 月中旬、山崎覚次郎の研究室に届いた(山崎 1921、1-2 頁)。

<sup>5)</sup> [東京大学] 経済学部部局史編集委

内訳

1781年当時のカタログに記載されている、アダム〔・〕  
スミスの全蔵書数は約1120部(2300冊)である  
から、当文庫所蔵の141部(303冊)というのは、その  
八分の一強を占めるわけである。

141部の中、英語で書かれたものは62部(98冊)〔、〕  
それに次いでラテン語のもの34部(39冊)、フランス  
語28部(91冊)、イタリア語15部(73冊)、  
ドイツ語のものはスミス自身の著作の独訳2部(2冊)  
を含むだけである<sup>9)</sup>。

内容は、哲学、文学、政治、厂史等広範囲に亘るも  
経済学書はスミス自身の主著とその独訳以外は  
見当らない。

次にそのあらましの内訳を示す<sup>10)</sup>。

	発行年代	部数	冊数
1 文学的作品 (詩、戯曲、物語、評論等)	1561~1788	26	86
2 厂史	1521~1789	24	72
3 哲学・宗教	1651~1785	15	27
4 政治・法律	1629~1784	15	9
5 地誌	1627~1775	13	13
6 博物	1686~1781	11	40
7 旅行記	1633~1776	9	12
8 傳記類 <sup>11)</sup>	1580~1787	8	19
9 軍事	1758~1778	4	4
10 語学(辞典、文法書)	1735~1776	3	4
11 古物研究	1553~1780	3	3
12 農業	1770~1774	2	3
13 数学	1781	1	1
14 建築	1758	1	1
15 医学	1771	1	1
16 スミス自身の著書(及其の独訳)	1770~1790	4	7
17 <sup>12)</sup> スミス蔵書目録	1781	1	1

(この最後の項目に挙げた“蔵書目録”  
は、手書本で、アダム・スミス自身が存命中に作成  
させた唯一の蔵書目録と考えられるものである。

員会『東京大学百年史 部局史  
一』(以下、『百年史』と略記)66  
頁には、「永峰小使ほかの職員、  
本学部学生その他の人々の努力  
で搬出され、奇跡的に救われた。」  
とある。また、同書の(注)には、  
「書類、図書等の救出にたくに活  
躍した職員として、堀内新太郎  
(書記)、諏訪貞(書記)、永峰巳  
之助(小使)、西村勇松(同)、大  
坂勝五郎(同)、久住吉五郎(同)、  
池田兼吉(定夫)、山谷岩松(同)  
の名が記録されている。また笠川  
長康、立岡安明を始め本学部学生  
のほか、本富士署警官、第一高等  
学校生徒、正門前の魚屋店員、そ  
の他姓不詳の有志が図書の投下  
搬出に協力した。」とある。

<sup>6)</sup> この場合の研究室とは、学部研究  
部門の総称を意味する。また「現  
在の建物」とは、現在の法3号館  
に該当する。

<sup>7)</sup> その様子を写した写真1枚が、現  
存している(写真2参照)。撮影  
日および撮影者についての情報  
は確認できなかった。

<sup>8)</sup> 1945年の2月に、貴重書を中心  
とした図書の疎開を急ぐことと  
なり、柳川昇教授、大河内一男助  
教授(当時)、今野源八郎助教授  
(当時)の3名が、図書疎開責任  
者となって、疎開先の候補地を調  
査した。アダム・スミス文庫につ  
いては、6月中旬か7月にかけて、  
保管設備の整った山梨県立図書  
館(甲府市内)に疎開させた(『百  
年史』135頁)。  
また、東京大学経済学部編『東京  
大学経済学部五十年史』東京大  
学経済学部、1976年、59頁には、  
疎開作業について、上野道輔教  
授、柳川昇教授の指揮の下、事務  
職員が特別研究生の協力を得て  
行ったとある。

<sup>9)</sup> 2019年3月現在では、英語が67  
タイトル(103冊)、ラテン語が  
34タイトル(39冊)、フランス語  
が34タイトル(97冊)、イタリ  
ア語が16タイトル(74冊)、ド  
イツ語が2タイトル(2冊)とな  
っている。

<sup>10)</sup> 東京大学所蔵分のスミス旧蔵書

約 1120 部 (2300 冊) の書物が、納められていた書棚毎に区分、記載されている。

### カタログ編纂

James Bonar 博士は、アダム・スミス蔵書目録を編纂するに当り、スミス蔵書を分有している個人や学校などに広く呼かけて協力を求めたが、東大経済学部にてこの依頼に応じて 故河合榮治郎教〔授〕が同学部所有にかゝるスミス文庫のリストを作成し寫しを送った。このリストにより Bonar 博士のカタログ第二版 (“A Catalogue of the Library of Adam Smith [”] 1932)<sup>13)</sup>には、第一版<sup>14)</sup>に漏れていた約 20 冊が新に記載されることになり この協力を多とされたが、早急に作成されたものであるため このリストには不備な点が多く、その不完全さが Bonar のカタログにも響いていることを認めざるを得ない。

1949 年、東大経済学部創設三十周年の記念に同学部矢内原忠雄教授は 当アダム・スミス文庫の詳細・完全なカタログ作成を企て、多くの人々の協力を得て 同年八月完成した。これは、“A full and detailed Catalogue of Books which belonged to Adam Smith, Now in the possession of the Faculty of Economics, University of Tokyo, With Notes and Explanations”と題して 1951 年 岩波書店から発行された。巻末には、当文庫所蔵の“A Catalogue of books belonging to Adam Smith Esqr. . . . 1781”<sup>15)</sup>の全内容を記載、Bonar のカタログ第二版と照合させて Bonar に収められているものはその記載箇處の頁付を記入してある。この比較によつて 1781 年のカタログに見られる書物の多数が Bonar のカタログ第二版に載っていないことが知れるであろう<sup>16)</sup>。

矢内原教授のカタログは、岩波書店が 1,000 部を印刷した中 500 部を経済学部へ寄贈した。

の分野別内訳については、野原慎司氏 (東京大学大学院経済学研究科准教授) が新たに調査・分類をし、2016 年の経済学史学会第 80 回大会 (5 月 21 日、於東北大学) で報告をしている (『アダム・スミス文庫』の調査から見えてくるスミス像)。調査によると、全体を占める各分野の割合は、文学が 24%、歴史が 28%、哲学が 8%、博物誌が 7%、旅行紀が 8%、スミス自身の著作が 2%、その他が 23%となっている。この「その他」には、数学、宗教、辞書類、政治学、法学、交易、農業、語学、医学、地理学、貨幣学が含まれている。なお、野原氏は、各分野についてさらに細かく分類しているが、その詳細については、経済学史学会 Web サイト内、第 80 回大会のページ ([http://jshet.net/modules/contents/index.php?content\\_id=105](http://jshet.net/modules/contents/index.php?content_id=105)) を参照のこと。

<sup>11)</sup> 原文では、つくりの「頁」を省略している。以下、同様。

<sup>12)</sup> 原文では、この「17」から次頁に記録されているが、表としての体裁を優先するために改頁の記号を省略した。

<sup>13)</sup> James Bonar, *A catalogue of the library of Adam Smith : author of the "Moral sentiments" and "The wealth of nations"*, 2nd ed., London : Macmillan, 1932. 以下、Bonar 1932 と略記。

<sup>14)</sup> James Bonar, *A catalogue of the library of Adam Smith : author of the "Moral sentiments" and "The wealth of nations"*, London : Macmillan, 1894. 以下、Bonar 1894 と略記。

<sup>15)</sup> *A catalogue [sic.] of books belonging to Adam Smith, Esqr. ,1781.* 以下、Smith 1781 と略記。

<sup>16)</sup> この矢内原カタログの後、水田洋氏によって新たに 2 冊の冊子体カタログが作成された。

① Hiroshi Mizuta, *Adam Smith's library : a supplement to Bonar's Catalogue with a checklist of the whole library*, Cambridge : Cambridge University Press, 1967.

その 500 部の寄贈先リスト (別冊、参照) に次の記録  
ノード

[が] ある。

経済学部三十周年祝賀として  
岩波書店が製作し  
1,000 部を印刷した中  
500 部を経済学部に寄贈せられたり。

1951 年 6 月 15 日岩波雄二郎氏来訪。  
正式に寄贈せられたり。

**補修**

スミス文庫の破損状態は、昭和 29 年当時下記のように  
なもので、形にあらわれないまでも 全体に非常に脆弱 [化]  
し、早急に応急処置だけでも行う必要が迫っていた。

1	表紙の両方とれているもの (とれようとしているものも含む)	32
2	片方	57
3	表紙が両方失われているもの	2
4	片方	2
5	背が破損しているもの (ひどいのはバラバラになっている)	5
6	背の中央から割れているもの	8
7	背の脇にひびが入って表紙がひもだけでつながっているもの	
	片方	62
	両方	41
8	背革一部破損	21
9	表紙の角の破損しているもの	30
10	背、表紙等の革がところどころはがれているもの	115
11	背の脇にひびの入っているもの	135
12	背革にひびの入っているもの	24
13	表紙革の変色しているもの	6
14	内容一部汚損或は毀損	10
15	内容綴じ目の切れているもの	1
16	表紙の紙のすり切れているもの	4
17	一應修理はあるが不体裁のもの	3

係の者は非常に気をもんでいたが、当時はまだ  
本格的修理に着手する機運に向うとは思えなかつたの [で]  
図書館の永峯光名氏<sup>17)</sup>の指導を得て 応急処置を施そう [と]

② Hiroshi Mizuta, *Adam Smith's library: a catalogue*, Oxford / New York: Clarendon Press / Oxford University Press, 2000. 以下、Mizuta 2000 と略記。

<sup>17)</sup> 1918 (大正 7) 年 10 月から 1962 (昭和 37) 年 3 月まで在職 (東京大学附属図書館編『図書館再建 50 年: 1928-1978』(東京大学附属図書館、1978 年。以下、『図書館再建』と略記)。スミス文庫修復に関係する期間中、1954 (昭和 29) 年は、附属図書館運用課・図書館学資料室主任を、1955 年と 1957 (昭和 30・32) 年は、附属図書館運用課・参考主任兼図書館学資料掛長を務めていた。

<sup>18)</sup> 大河内一男。専門は社会政策。1963 年から 1968 年まで、東京大学総長を務めた。

<sup>19)</sup> 山下清作。1932 (昭和 7) 年 9 月から 1971 (昭和 46) 年 6 月まで在職。(『図書館再建』) アダム・スミス文庫撮影当時は、附属図書館・経理掛長を務めていた。

<sup>20)</sup> 写真は合計 23 枚 (封筒付き) 現存している (附録 写真 3-26 参照)。

<sup>21)</sup> 「原型保持」とはおそらく現在でいう「原形保存」、つまり資料の原形・オリジナリティの保持を意味すると考えられる。現在は「修復の 4 原則」(原形保存の原則、安全性の原則、可逆性の原則、記録の原則)の中で第一に謳われている。こういった考え方は、1966 年のフィレンツェの水害を契機に、1979 年に国際図書館連盟 (IFLA) が作成した『資料保存の原則』の中で提唱され、世界の図書館に普及していったとされる。しかし、この記録からすれば、大河内は図書館界で国際的に提唱される以前から、「原形保存」の考え方を認識していたことになり、当時としては先駆的な修復方針を現場に指示していたといえよう。他方、文化遺産の保護・修復について、世界では、スミス文庫修復時期の 1950 年代までに、憲章な

考え、経済学部の大河内教授<sup>18)</sup>に御相談したところ、予〔算〕をとつて本式に修理をするように運べるかどうか検討し〔て〕みる、との御言葉を、早速予算見積書を作成して提出した。

昭和 29 年度分予算 300,000 円を得る見込が立つたので、永峯光名氏の紹介により、現在の日本に於ける製本師の中でも諸（もろ）の第一人者と言われる 服部政祐氏を招き、資料室の隣の小部屋を作業場にあて、本格的修理に 昭和 30 年 1 月 18 日着手した。

その直後 昭和 30 年 1 月 22 日及 29 日の二度に亘り、図書館の山下氏<sup>19)</sup>を煩わして「スミス文庫修理前の状態」を撮影し、記録に残した<sup>20)</sup>。(別封、参照)

修理に着手するにあたり、大河内教授から服部氏に対し、厳密な「原型保持」<sup>21)</sup>の方針の説明があつた。

最初から容易ならぬ仕事という覚悟はしていたが、服部氏が実際に取組んで、腫れ物に障るような作業が續けられてゆくのをしていると、仕事全体の量の見当がまるでつかなくなり、30 万の予算 1 年程度の時間で略々全体に手を入れることが出来ると考えたのは大きな誤算であることが明かになつた。表の革は殆ど性が無いほどに風<sup>22)</sup>化し、或るものは大震災の際 火にあぶられ、その上助けるために水をまいた上に放り出され、などという目に遭つているので、一寸きつく手をふれば ボロボロくずれ落ちてしまう。要を綴じている麻は、本を書棚からそつと出し入れするだけの衝撃にもよくたえ得ず とれようとする表紙をつなぎとめておく苦勞は並大抵のものではない。それを、現状そのままを保存するのだから「爪の垢一つ失わないように」といふ修理方針であるから 服部氏の苦勞は察するに余りある。数冊一度に手をつけ、並べて修理してゆくのであるが、(修理順序は 1. 背と表紙の革をはがす、2. 見返しの修理、3. 背のとち麻を足して にかわでまとめる、4. 表紙をつけて革でくるむ 5. その上にもとの表紙の革をはり込む 6. 油をひいて手入)<sup>23)</sup> 着手から 2 月半まで約 1 ヶ月間に 7 冊、それから 4 月半まで約 2 ヶ月間に 12 冊、5 月末まで約 1 ヶ月半に 9 冊、7 月末まで約 2 ヶ月間に 8 冊、

どの文書が複数起草され、明文化されていた。特に 1931 年の「アテネ憲章」(Athens Charter for the Restoration of Historic Monuments)では、「完全な修復は行わ」ないことや、「修復することが不可欠であると思われる場合においても、いかなる時代の様式も無視せずに、過去の歴史的・芸術的作品を尊重する」ことが推奨されている(日本イコモス国内委員会『文化遺産保護憲章 研究・検討 報告書』1999 年、68 頁)。また、その影響を受けて、1932 年には「イタリア修復憲章」(Carta Italiana del Restauro)が公布された。これらは歴史的モニュメントを対象とするもので、図書についての言及はないものの、こうした考え方を大河内はすでに認識しており、図書館においても有効であるとみていた可能性が考えられる。

<sup>22)</sup> 原文では、かぜがしら(几)の中に、縦に二つの点(丶)の略字。以下同様。ただし略字を用いていない場合もある。

<sup>23)</sup> 当時の修復方法について、2018 年 7 月 1 日から 9 月 30 日の期間で、篠田飛鳥氏(現所属・一橋大学社会科学古典資料センター貴重書保存修復室)の協力を得て、現物をもとに調査を実施し、期間内に 187 点を調査した。全点の調査が終わっていないので、あくまで現時点における中間報告ではあるが、当時の修復方法には少なくとも次の 4 種の存在が確認されている。

- ①表装全体に新しい表装を貼り、その上から旧表装を貼り付けた修復
  - ②表装の背部分に新しい表装を貼り、その上に旧表装を貼り付けた修復
  - ③表装の部分修復(旧表装を一度剥がし、新しい革を入れ込む)
  - ④表装の部分的な簡易修復(表装の上から修復・旧表装の欠損部分を埋める)
- ここから、表装全体をまったく新しい表装に交換したものではなく、「原型保持」の方針にできるだけ忠実であろうとした服部の姿勢がうかがえる。



といった調子で実に埒が明かない。予算の枠を動かせ〔な〕  
いものとする学部としては、服部氏の「むやみに凝った〔〕  
仕事ぶりに対し むしろもてあまし気味の態度であつた〔。〕  
一方服部氏の「職人氣質」は、この仕事を自分の墓碑に〔彫〕  
るといつて打込み、いやしくも手を抜くことを肯んじない〔。〕  
係の者としては この両者を調和し、30万円の枠内で何〔とか〕  
一應の形をつけようと努める一方、大河内教授や高島事〔務〕  
長<sup>24)</sup>などに作業の状況を説明し、予算の追加を得る可能〔性〕  
を検討していただくよう依頼した。

学部内にあつては、鷹野図書主任が研究室委員会に対〔し〕  
幾度かこの仕事の状況報告の勞をとられ<sup>25)</sup>、又委員会から  
スミス文庫修理に関する責任を一任された 横山教授<sup>26)</sup>は  
永峯光名氏と共に しばしば修理の方針を検討され  
服部氏とも話し合われる一方、教授会に対しても、破損  
状態の寫眞や、修理を終えた“作品”を提示し、作業の困難  
さを説明される等、その了解を得ることに努められた。

下記はその際 横山教授の依頼に応じて提出した説明  
書の寫しである。

スミス文庫の修理上困難な点を作業の順を追つて書留  
めますと、

1. 古い革を一應全部剥がす(見返しの紙をはがし、内側〔の〕  
皮をはがして 外側の皮に及ぶ)
  - ・革が古くて風化されている為、大変脆く、その上  
震災の時 火に焙られて密着の度が極めて強く  
なっている為、非常にはがしにくく、それを微温〔湯〕  
でふやかして、原型をあくまで損わない様に大〔事〕  
をとつてはがすのは 大変な根気仕事であり、  
一冊に2日、ものによつては 3日かかる。
  - ・見返しの紙の補強に和紙で裏打ちをするが、  
古い紙がボロボロになりかけている場合には  
之もなかなか困難な作業である。

なお、背については、調査した  
187点分は、すべてに何かしらの  
補修が加えられていることが確  
認された。

<sup>24)</sup> 高島忠雄。1953(昭和28)年7  
月に事務長に就任し、1968(昭和  
43)年3月まで務めた(『百年史』  
186頁)。

<sup>25)</sup> 鷹野図書主任とは、スミス文庫  
の修復時点で、経済学部の図書室  
事務部門の責任者の一人であつた  
鷹野次彌を指す。また研究室委員  
会とは、学部創設以来の研究室  
主任制度を、1948(昭和23)年に  
改組して設置されたもので、学部  
研究部門全体の整備に関するこ  
とを所掌としていた。1970(昭和  
45)年に図書委員会が設置される  
まで、図書館に関する事項は、同  
委員会の管轄下にあつた。  
東京大学経済学部資料室に『[研  
究室]委員会資料』として、昭和  
31年1月から昭和36年7月まで  
の研究室委員会の議題が残されて  
いる。ここから、昭和31年3  
月7日、3月14日、3月19日、  
3月24日、4月11日、4月18日、  
5月9日の7回にわたって断続的  
に修復の状況について報告がな  
され、修復計画についても審議さ  
れていることが分かり、本覚書の  
記述を裏付けている。

<sup>26)</sup> 横山正彦。1955年より教授。経  
済政策担当。

2. 綴ち麻の補強・背。

本の背の、之等横に細く浮上っている部分をバンドと申します由。



背のとち麻が性が無くなっている為、新しい麻を足して背の形をつけるが、その際もとの通りに背皮を本の背に直接貼りつけると、その表面に貼る古い革に又すぐひびが入る恐れがあるので、密着させず浮かして背をつくる。その為手数もかゝり、又背のバンドが浮出しにくくなるので、革の内側に和紙を貼って形をつける等、技巧としてもむづかしい。

3. 背と表紙の連結

この連結に用いられていた麻が駄目になっているので、新しい麻をもとの通りの形に入れる。しかし麻だけでは連結の力も弱く、しばしば開閉する中には切れやすいので、和紙を合せたものをバンドとバンドの間に蝶番式に貼って補強する<sup>27)</sup>。

4. 新しい革で全体をくるむ。

5. 古い革をその上に貼る。(はがしておいた古い革をぬるま湯でやわらかく戻して、のりで貼る)

性がなくなっている革をボロボロにしない様に大事にとりながら、しかも将来長くはがれる恐れのないようにのりをつける技巧が非常に困難で、一冊に半日位かかる。

6. 見返しをのりで貼つける。

7. ラノリン<sup>28)</sup>で手入。

8. 内部の破損箇處修理。(紙の破損している部分は、他の昔の本から取った似た色の紙<sup>29)</sup>、或は和紙で補足するが、色がうまく似通わない場合には、植物を煮つめて 絵具をつくり、それを塗る)

總じて、震災と戦時の疎開等を経過して破損が甚だひどく、軽微に見えるものでも風化のため〔革〕は殆ど泥の様に性がなく、紙は、水をかぶつた部〔分〕火にあおられた部分など觸れると毀れ落ちる状態で、この「脆さ」が取り扱いを非常に困難なも〔の〕

27) 覚書の通り、背バンド間に和紙で補強してあるものが多いが、筒状のクーターは使用していないことを2018年の調査によって確認した。

28) ラノリン (lanolin) とは、毛に覆われた羊の皮脂腺から出る分泌物を精製したもので、保革油の成分として用いられる。wool wax ともいわれる。ラノリンには、脆くなった革の中に浸みこんで、柔軟性を向上させる効果がある。

29) 2018年の調査によって、数点には、別資料の見返しが使用されていることを確認した。

とし、予想のつかなかつた ひまをとらせておりますが、「原型保存」の建前で始めた仕事でございますので、現存する原の材料を一かけらも粗略に扱わない態度で作業をすゝめております。 以上

学部外に於ては 図書館の永峯光名氏が、「予算の〔額〕と「修理の方針」との調和、という最も困難な問題の處理に当り常によき相談相手となつて適切な助言を與えられ、高島事務長に対しては この種の仕事の性質や価値を説明され〔る〕と同時に、服部氏に向つては作業の要處を指摘し、「凝〔り〕過ぎ」の傾向を戒めるなど 親身な協力を惜しまれなかつ〔た。〕

予算の追加を得られる見込は非常に薄かつたので、30年度分、更に先へ行つては31年度分の予算はとれないものとして仕事にしめくりをつけるように、という指示を幾度か受けた。

こういう種類の仕事は無駄と見える部分も決して無駄なわけではない。出来るだけ手をはぶいて、なるだけ数多くものに何とか形をつけてほしい、という註文は、その度〔が〕過ぎれば 酷な要求になる。予算と職人的良心との板挟みになつて 服部氏は暫くの間 神経衰弱状態に陥つた。係の者も度々 永峯氏のところへ足を運んでいろいろ工夫を重ねたが 仕事全体の量がそう減るわけもなかつ〔た。〕

幸い 高島事務長やその他この仕事を理解して口添えして下さる方などの盡力により、昭和30年度20万円、31年度25万円と重ねて予算が追加され、300冊余完全に補修出来る見込が立つたのは実に有難いことであつた。

---

経費の不安が薄らぐ頃から、老齡の服部氏の健康の衰が目立ち始め、殊に視力の衰退が非常に懸念された。助手を雇つて仕事を分擔することを、永峯氏も高島事務長〔も〕提案されたが、服部氏は、弟子も持たず これならと思う職人も居ないから、という理由で肯じなかつた。昭和31年度分の予算25万円は、当時係の者が、「完成までに要する費用」として申請した額を幾分上廻るものであつたので、その余裕を幸いとして 服部氏が少しずつ休息をとれるように生活を工夫した。昭和31年の半ば頃からは手馴れて来て、仕事も無駄なく 捗取るようになっていたので、健康も回復

しやすかった。 昭和 32 年 9 月 仕事は完成した。

肉体的にも、又精神的にも、この仕事は服部氏にとって大変な事業であつた。作業の難しさや、こうまですることの意義をなかなか ひとに わかつてもらえないだけに、立場としても苦しかつたろうと思う。終始一貫この仕事を熱心に支持し、時に応じて相談相手ともなり 協力を惜しまれなかつた方に矢内原總長<sup>30)</sup>がある。服部氏は学外に多くの理解者 支持者を持つていたが、予算問題を無視するわけにゆかない学内に於て たじろがず この事業と職人気質を支持されたことを 服部氏はとりわけ多としていた。幸い結果が 来訪者達に非常に好評であることは有難い。

此の仕事の経過中、予算申請その他の機会に係の者は幾度か 当時の、仕事の経過報告や其後の経費見積書の提出を命ぜられた。それらを一々掲げることは煩瑣でもあるし、又今となつては重複が多くなるので割愛して、次に完成後提出した全体の報告書を寫しておく。(鷹野図書主任を通じて研究室委員会へ提出したもの)

アダム・スミス文庫破損補修

期間 昭和 30 年 1 月 18 日 着手  
昭和 32 年 9 月 10 日 完了

---

予算	昭和 29 年度分	300,000 円
	昭和 30 年度分	200,000
	<u>昭和 31 年度分</u>	<u>250,000</u>
	合計	750,000
経費	職人手当 (日給計算、月 16,200 円見当)	
		524,400 円
	道具類 (ボール切機 (7,000 円), 手機械 (大・並計 7,000 円, 其 [その他])	
		25,950 円
	材料費 (革 (188,865 円) その他)	
		<u>199,490 円</u>
	合計	749,840
残額		160 円

破損状態 (總數 304 冊)

1. 表紙がとれていたり、背革がひどく破損し綴

<sup>30)</sup> 矢内原忠雄。1951 (昭和 26) 年から 1957 (昭和 32) 年まで東京大学総長を 2 期 6 年務めた。

- じ糸が切れていたりして、本の形を成していなかつ [た]  
もの 106 冊
2. 處々かなり破損はしているが、どうにか繋が [つ]  
ていたもの 128 冊
3. 部分的に 手のかかる補修が必要であつたも [の]  
59 冊
4. 僅か手を加えるだけですんだもの、 10 冊
5. 全く修理の必要のなかつたもの 1 冊

#### 修理経過

すべて 16～18 世紀の製本にかかるもので、  
年月による風化に加えて震災と戦時疎開の際  
破損が甚しく、304 冊殆ど全部が相当大修理

---

を必要としており、しかも修理方針が「原型保持」  
ということであるため、目立たぬながら非常に困  
難な、手間のかかる仕事であることが予想され、  
30 万の予算で完全に修理することは覚束なく  
思われたが、当初それ以上予算のとれる見込は  
薄かつたので、重点主義を採り、各冊の内容、  
利用度、装幀等を考慮して 重要なものを選び、  
その中で破損のひどいものから手掛けることにして、  
昭和 30 年 1 月 18 日着手、同年 7 月 28 日までに  
36 冊 完成した (古い革の下にすつかり新しい  
革を貼り込んだ完全修理)。

ここで、翌年度の予算を申請する爲などで、眼に  
見える実績を擧げる必要が生じたため、綴じ  
麻のしつかりした、破損の度の比較的軽いもの  
を選び、部分修理で処理して冊数を稼ぐ  
ことにし、同年 10 月末までに 46 冊完成。

思いがけなく、30 年度分予算 20 万円が  
追加されることになつたので、10 月末から  
再び重要なものの完全修理に切かえ、翌 31 年  
1 月 4 日まで續けたが、この期間は、職人が  
健康を害して捗取らず、11 冊完成しただけで  
あつた。

昭和 31 年 1 月始め、完成までの見積りを立て、

20万円を加えても 全部を修復出来る見込みはないと考えたので、破損の程度に拘わりなく、内容的に利用される可能性の多いものを選んで片端から処理、同年4月末までに39冊完成した。

同年5月以降「請負」に切かえ。残りの分各冊の破損状態を検討して、修理に要する日数を見積り、「毎月23日分完成」を基準と

して、以後頗る順調に進捗。31年度分予算25万円が追加され、完全に全部修復出来る見込みが立った。

昭和31年	5月～8月	60冊
	9月～12月	56冊
昭和32年	1月～3月	24冊
	4月～6月	23冊

昭和32年6月末現在、残すところは、手書本の「スミス蔵書カタログ」復原とそのケース作成（革書物の体裁に作る）であつた。この手書本は、スミス文庫の中でも最も重要なものであるので、職人が経験を積むのを待ちながら、予算と睨み合せて最後にとつておいたもの。幸い余裕のある状態でゆつくり仕上げることが出来、職人自身も 始めて 心ゆく出来栄であると喜んだ。

尚予算には、9月半ば位まで仕事を續けら [れ] だけのゆとりがあつたので、以前窮屈であつた頃、一應見送つて置いた細部（背天地、表紙角の小破損つくろい<sup>31)</sup>、小口修理、虫喰痕の修理、マーブル捕色など）に手を入れた。

昭和32年9月10日 完了。

以上

<sup>31)</sup> 2018年の調査によって、服部の補修では、角を丸く仕上げる傾向にあることが確認された。

<sup>32)</sup> 「追加」とはこのノートへの追記という意味ではなく、「購入や寄贈によりスミス文庫に新たに加わった書籍」という意味であろう。なお、現在までに追加購入されたスミス旧蔵書については、補注 i) を参照。

<sup>33)</sup> Mizuta 2000, no. 867, Bonar 1932, p.190. 現在の東京大学 OPAC では、[Manuscript, on parchment, of Venetian statutes]となっており、Bonar 1894 や 1932 のタイトルを参照している。また Bonar 1932 には“C”とあることから、Cunningham portion 由来といえる。

<sup>34)</sup> 表紙中央には、ヴェネツィアの紋章である「本を開くライオン」が描かれていることから、装幀は、ヴェネツィアで施された可能性が高い。なお、校訂者（森脇）は、2016年11月10日の国立マルチャーナ図書館（Biblioteca Nazionale Marciana）の修復工房での調査にて、これと同様式の装丁の書籍を確認している。

<sup>35)</sup> 厳密には、仔牛皮（ヴェラム）が用いられている。

追加<sup>32), i)</sup>

1. タイトルページが失われているため題名その他不明<sup>33)</sup>。  
ペルシヤあたりの本の表紙をそのまま、利用したかと思われ  
る風な装幀<sup>34)</sup>で、中は羊皮紙<sup>35)</sup>にセピアのインク<sup>36)</sup>で書  
かれている。手書本。イタリア語。

M.S. late 16th Ce[r]y 1590-1610
---------------------------------------

Century<sup>か</sup>

と書いた小紙片がはさまれている<sup>37)</sup>。

(44P.)

内容未詳<sup>38)</sup>。未登記<sup>39)</sup>。

経済学部がその三十週<sup>ママ</sup>〔周〕年資金の一部をもつて  
上野松坂屋古書部より購入、スミス文庫に  
追加したもの。

購入日附 昭和29年6月9日

代金額 55,000円

尚、「毎日新聞」昭和29年5月3日(朝刊)<sup>40)</sup>に  
「アダム・スミスの珍蔵書」という見出しでこの書物の  
紹介記事が掲載されている。

## 2. [Slack, Thomas] (1723-1784)<sup>41)</sup>

The British negociator[sic.]: or, Foreign  
exchanges made perfectly easy. Containing  
tables for all the various courses of exchange  
from, and the several coins equated of,  
Holland, Hamburgh[sic.], Germany, ... also,  
arbitrations of exchanges, ... the weights and  
measures ... by S. Thomas, merchant.  
London ... 1759.

東大経済学部の大河内一男教授が欧米視察に赴か〔れ〕  
た際、偶々発見されて購入、昭和33年10月31日<sup>42)</sup>〔附〕  
同学部へ寄贈されたものである<sup>43)</sup>。

下記のような証明書が附されている。

George Harding's Bookshop Ltd.

Booksellers & Library Agents

36) ここでいう「セピア」が、インク  
の色そのものを指しているのか、  
イカ墨を原料とする暗褐色の顔  
料を意味するのかは不明である。

37) 現在、この小紙片に該当するも  
のは見当たらず、所在不明であ  
る。

38) 水田洋氏は、「イタリア語手稿本  
は、マイクロフィルムをスラッフ  
アによんでもらったけっか、わた  
くしの予想どおりに、すでにボナ  
ーに記載されている『ヴェネツィ  
ア刑法』であることがわかった。」  
としているが、田添京二氏によれ  
ば、「かなり広く政治的・社会的  
問題についての記述を含んでお  
り、あるいは『ヴェネツィアの法  
令』<sup>ママ</sup>を訳した方がいいかも知れな  
い」とのことである(『アダム・  
スミスの味』1965年、300, 317  
頁)。

39) 2013年に登記され、請求記号：  
アダムスミス:145、登録番号：  
5513482850となっている。

40) 毎日新聞(東京朝刊)4面。

41) 請求記号：アダムスミス:144、登  
録番号：5509472170、登記番号：  
E103576、Mizuta 2000, no.1657、  
Bonar 1932, p.185、Smith 1781, 25  
葉。

42) 昭和33年10月31日はこの覚書  
中での最新の日付である。この覚  
書は筆致から判断して、徐々に書  
き溜められたものではなく、一気  
に清書されたものと判断される。  
つまりこの日付は覚書の執筆時  
期の上限と推定できる。

43) 登記日は、1974(昭和49)年5  
月7日。

44) この直筆文は、当該書籍が、グラ  
スゴー大学から「何かの拍子に流  
れ出したか盗み出されて、ハーデ  
ィング書肆にたどりついたの  
ではないことを明らかにしておき  
たい」(『アダム・スミスの味』314  
頁)という大河内の考えから、  
Wheelerに依頼して書いてもらっ

この部分  
Wheeler  
氏の自筆<sup>44)</sup>

This book (Thomas, British Negotiator[sic.] 1759[]) was purchased by me with the whole library of Prof. W.R. Scott<sup>45)</sup>, at Glasgow in 1941, and is presumed to be his own personal property<sup>46)</sup>.

George A. Wheeler (Governing  
29/10/54 Director of  
the Bookshop)

この書は、Bonar のカタログ第二版（1932 年版 185 頁に記載されているもので、当時は Glasgow Univ. 所蔵<sup>47)</sup>、“Presented by Prof. W.R. Scott, who had it from Prof. J.S. Nicholson.”<sup>48)</sup> という注記がある。

たもの。裏見返しに、「昭和 30 年 10 月 31 日大河内一男教授」と記された寄贈印が押された手製の封筒が貼り付けられ、その中に証明書が収められている。

<sup>45)</sup> William Robert Scott (1868-1940) スミス研究の権威の一人。グラスゴー大学「アダム・スミス講座」(Adam Smith Professor of Political Economy) の担当教授 (1915-40)。Smith 1781 の詳細な写真版を東京大学 (経済学部・河合榮治郎教授と工学部・加茂正雄教授を通じて) に依頼。依頼した写真は、1937 年に出版された、Scott 教授の著作 *Adam Smith as Student and Professor* に役立ったと言われる (大河内一男『アダム・スミス文庫』餘談『経友』28、1939 年、28 頁)。

<sup>46)</sup> 原文書では personal と property の間で改行されている。

<sup>47)</sup> 大河内一男は、「カタログの註記をみると、このスミス蔵書のトマスの本は、かつてのグラスゴオ大学のアダム・スミス講座担当教授だった W・R・スコット博士が J・S・ニコルソン教授から贈られたもの、と記されている」が、グラスゴー大学の蔵書目録に、この書誌はなく、また書籍自体に、大学所蔵を示す痕跡は見当たらないと述べている (『アダム・スミスの味』313-314 頁)。

<sup>48)</sup> 実際には、表表紙側の見返し右側 (free endpaper) の上方に以下のように記されている。

To W. R. Scott  
from  
J. Shield Nicholson  
Xmas 1911

なお、『アダム・スミスの味』313 頁では、「タイトル・ページの上方には、なるほど「J・シールド・ニコルソンから W・R・スコットへ。一九一一年クリスマス」と書かれている。ニコルソン教授の直筆である。」と記述されており、実際の記載位置との相違がある。



## 補注

### (1) アダム・スミス旧蔵書の伝来図

当該図は、James Bonar, *A catalogue of the library of Adam Smith: author of the "Moral sentiments" and "The wealth of nations"*, 2nd ed. London : Macmillan, 1932, pp. xvi-xviii. に基づき作成された。

以下、蔵書の継承の経緯に従って、解説が必要な部分について注釈を加えた。

#### a) 【Adam Smith から David Douglas へ】

図では、「(スミスのいとこ)」となっているが、国際経済学者で経済学史家の Jacob Viner の *Guide to John Rae's life of Adam Smith*, New York : A.M. Kelley, 1965. の Introduction の 7 頁、脚注 1 には、スミスのいとこの息子 ('David Douglas (later Lord Reston), Smith's heir, usually referred to as Smith's "nephew" or "cousin," was the son of a nephew of Smith's mother, i.e., the son of a cousin of Smith') とある。

なお、David Douglas とスミスの関係については、Vinar も言及しているように、Nephew とする説と、Cousin とする説がある。Nephew 説は Ian Simpson Ross (*The life of Adam Smith*, Oxford : Clarendon Press, 1995.) , James Buchan (*The authentic Adam Smith : his life and ideas*, New York : Atlas Books /W.W. Norton, 2006.) , Nicholas Philipson (*Adam Smith : an enlightened life*, New Haven : Yale University Press, 2010.) らによって、Cousin 説は Dugald Stewart ("Account of the life and writings of Adam Smith", *The works of Dugald Stewart*, Vol. VII, Cambridge : Hilliard and Brown, 1829.) や John Rae (*Life of Adam Smith*, London ; New York : Macmillan, 1895.) らによって唱えられている。

#### b) 【David Douglas から 2 人の娘 Mrs. Bannerman と Mrs. Cunningham へ】

David Douglas の死後、蔵書はその 2 人の娘に等分されたとのことである。("his whole estate was equally divided between his two daughters", Bonar 1932, p. xvii.) そして、「この等分というのは、機械的に冊数をわけた」ようである(水田洋「アダム・スミスの蔵書」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』No.19、1989年3月、11頁。以下、水田 1989 と略記。Mizuta 2000, p. xx.)。

以下、Bannerman 家遺贈分を Bannerman portion、Cunningham 家遺贈分を Cunningham portion と表記する。

#### c) 【Bannerman portion : Rev. David Douglas Bannerman から New College へ】

David Douglas Bannerman (1842-1903) は、David Douglas の孫で、the Rev James Patrick Bannerman と Mrs. Bannerman との間に生まれた長男。

Mrs. Bannerman が亡くなった 1879 年に、David Douglas Bannerman に書物が相続され、その後 1884 年と 1894 年の 2 回にわたって、New College (エディンバラ大学神学部) に寄贈されたようである(水田 1989、11頁)。

1972 年には、New College の図書館からエディンバラ大学の "Main Library" に移管された。なお、Cunningham portion の Prof. Hodgson 旧蔵の 32 点も、これらのコレクションと統合された。現在は、Edinburgh University Library, Centre for Research Collections の Adam Smith のセクションに所蔵されている (Karen Atter, ed., *Directory of rare book and special collections in the United Kingdom and the Republic of Ireland*, third edition, London : Facet Publishing, 2016, p.460. 以下、*Directory* と略記)。

(エディンバラ大学ホームページ内、Information and Service > Library > Centre for Research Collections > Explore the Collections > Directory of Rare Book Collections > Rare Books and Manuscripts > Adam Smith

<<https://www.ed.ac.uk/information-services/library-museum-gallery/crc/collections/rare-books-manuscripts/rare-books-directory-section/adam-smith>> 最終閲覧日：2019年2月25日)

**d) 【Cunningham portion : Mrs. Cunningham からエディンバラの古書店へ】**

図では、「Edinburgh で競売」と書かれているが、Mrs. Cunningham の夫 W. B. Cunningham が 1878 年に亡くなった際に、蔵書の一部はエディンバラの古書店を通して売却されたというのがより正確である。この売却は James Stillie (書店名も同様か) が指揮していたようで、多くの本には、James Stillie の名が入ったラベルが貼られていたようである (Mizuta 2000, p. xx.)。

**e) 【Cunningham portion : Prof. Hodgson (1815-80)からエディンバラ大学図書館へ】**

William Ballantyne Hodgson (1815-80) は、エディンバラ大学の経済学 (political economy) の初代教授 (1871-80)。

Hodgson は、エディンバラの書店での最初の販売で、スミス旧蔵書の一部を購入している。彼の没年の 1880 年には、その旧蔵書はエディンバラ大学図書館に寄贈された。

その後については、「経済学史に関する彼の蔵書約 1000 冊は 1880 年にエディンバラ大学図書館に寄贈され、これに含まれるアダム・スミス旧蔵書 32 冊は現在、David Douglas Bannerman が寄贈したニュー・カレッジのスミス旧蔵書と統合された」(“His collection of ca 1,000 books on the history of political economy were gifted to the University Library by his widow in 1880. They include 32 items from the library of Adam Smith (1723-1790), which were later joined in the Main Library by others gifted to New College Library by the Rev Dr David Douglas Bannerman (1842-1903)”)と言われ、32 点は Bannerman portion 由来の New College 所蔵分と統合され、“Main Library” に収められた (エディンバラ大学ホームページ内 Our History のうち William Ballantyne Hodgson の項 <[http://ourhistory.is.ed.ac.uk/index.php/William\\_Ballantyne\\_Hodgson\\_\(1815-1880\)](http://ourhistory.is.ed.ac.uk/index.php/William_Ballantyne_Hodgson_(1815-1880))> 最終閲覧日：2019年2月25日)。

現在は、Edinburgh University Library, Centre for Research Collections の Adam Smith のセクションに所蔵されている (*Directory*, p.459.)。

**f) 【Cunningham portion : エディンバラの古書店から Prof. Nicholson へ】**

Joseph Shield Nicholson (1850-1927) は、エディンバラ大学の経済学 (political economy) 教授 (1880-1925) で、Hodgson の後を継いだ人物である。また、Hodgson の娘と結婚した。

(エディンバラ大学ホームページ内 Economics > About us > History > The age of Nicholson

<<https://www.ed.ac.uk/economics/about-us/history/age-of-nicholson>> 最終閲覧日：2019年2月25日)

Nicholson もまた、エディンバラの古書店から旧蔵書の一部を購入し、後にスミスの故郷であるスコットランドの Kirkcaldy Museum にそれらを寄贈した。

**g) 【Cunningham portion : エディンバラの書店から各地へ (Prof. Hodgson の左横の線)】**

序で指摘したようにコピーミスがあるため、何らかの記述が欠けている可能性も否定できない。ただし、余白の大きさから推察すると人名などを記述するほどのスペースはないと思われるので、ここは空白であった可能性が高い。また、線を入れた上で空白としたのは、Edinburgh で古書店を通じた販売によって、Hodgson や Nicholson の他にも多数の買い手があったことを意味するものと考えられる。イギリス、アメリカ、カナダ、イタリア、日本に散逸したものが、ここに含まれると考えられる (Mizuta 2000, p. xx.)。

**h) 【Cunningham portion : Prof. R. O. Cunningham から Queen's College および古書店へ売却】**

Robert Oliver Cunningham (1841-1918)は、William Bruce Cunningham (1806-78) と Cecilia Margaret Douglas (Mrs. Cunningham, 1813-98)の間に生まれた次男で、Belfast の Queen's College の博物学の教授であった。蔵書の一部は、1887年に Queen's College に寄贈された。現在は、The Queen's University Belfast, The McClay Library において Adam Smith Library として所蔵されている。(Directory, p.412.) なお、The Queen's University Belfast のウェブサイトには、Adam Smith Library の紹介文と、そのコレクションの全リストのリンクが掲載されている (The Queen's University Belfast ホームページ内 University Directorates > Information> Services > The Library > Special Collections > Book Collections

<<https://www.qub.ac.uk/directorates/InformationServices/TheLibrary/SpecialCollections/BookCollections/>>(最終閲覧日: 2019年3月4日)。

残りは1918年に彼が亡くなってから、ロンドンの古書店 Dulau & Co.を通して売却された。その303冊を1920年に新渡戸稲造が購入の上、東京大学経済学部に寄贈し、現在に至っている。

**i) 本覚書作成後、東京大学経済学部に新たに追加された旧蔵書は、下記の通りである。**

①Francois Tott, *Memoires du baron de Tott, sur les Turcs et les Tartares*, 4 vols, Amsterdam : [s.n.] ,1784.

請求記号 : アダムスミス:142:1-4

登録番号 : 5509472188, 5509472196, 5509472204, 5509472212

登記番号 : E99762-E99765

Mizuta 2000, no. 1673

Bonar 1932, p.186 によると、Cunningham portion 由来となっている。

②Edmund Waller, *Poems, &c. written upon several occasions, and to several persons*, London : Printed for H. Herringman, and sold by J. Tonson, 1694.

請求記号 : アダムスミス:143 登録番号 : 5509472964 登記番号 : E99766

Mizuta 2000, no. 1756

Bonar 1932, p.194 によると、Cunningham portion 由来となっている。

\*①と②については、1973年のはじめに、スコットランドの古書店デュヴァルが、ロンドンの競売で入手し(水田 1989 参照)、極東書店を通じて購入した。登記日は、1974年1月22日とある。

③Pierre Poivre, *Voyages d'un philosophe, ou, Observations sur les mœurs & les arts des peuples de l'Afrique, de l'Asie & de l'Amérique*, Yverdon : [sine nomine], 1768

請求記号 : アダムスミス:146 登録番号 : 5509472972 登記番号 : E110047

Mizuta 2000, no.1340

Smith 1781, 58 葉

1976年7月に紀伊國屋書店から購入し、同年9月10日に登記している。大河内暁男は、「アダム・スミス文庫新収蔵書について」(『経済学論集』第42巻4号、1976年12月)の中で、「本書の収蔵にあたっては、ハーバード大学クレス文庫 K. Carpenter 氏ならびに一橋大学図書館の協力があった。」と言及している。実は、本書には、カリフォルニアの Harry A. Levinson Rare Books の Harry A. Levinson から、ハーヴァード大学の K. Carpenter 宛の手紙(写し)が挟み込まれており、この手紙上部には、この書籍の販売案内がつけられている。このことから、この書店から Carpenter に購入の打診があり、その後日本での購入が検討され、紀伊國屋が仲介となって、一橋大学を経由して東京大学経済学部に戻って来た可能性が考えられる。

④Lord Chief Justice Hale, *The new natura brevium of the most reverend judge, Mr. Anthony Fitz-Herbert : together with the authorities in law, and cases in the books of reports cited in the margin : to which is added a commentary, containing curious notes and observations on the most remarkable and useful writs, which illustrate and explain many doubtful and abstruse cases and points in the original*, the Savoy [London] : Printed for Henry Lintot, [London] : Sold by J. Shuckburgh, 1755.

請求記号 : アダムスミス:147 登録番号 : 5511373440

Mizuta 2000, no.616

Smith 1781, 3 葉

Mizuta 2000 では、Maruzen Co.の所有と記録されているが、1995年12月28日に、東京大学経済学部が丸善より購入した。(1995年9月13日の「平成7年度(第4回)図書委員会議事要録」によると、この時に購入が決定されている。)本書には、丸善の「欧米古書稀観書」の販売カタログのうち、該当部分を切り取ったカードが挟み込まれている。

⑤Jacques-Benigne Winslow, *Exposition anatomique de la structure du corps humain*, Paris : Chez Guillaume Desprez : Jean Desessartz, 1732.

請求記号 : アダムスミス:148 登録番号 : 5512028035

Mizuta 2000, no.1783 ここでは、Unlocated に分類されている。

Bonar 1932, p.197 によると、Cunningham portion 由来となっている。

Smith 1781, 14,71 葉

2001年3月15日に、丸善より購入。(2000年9月27日の図書委員会議案に、「7月12日、大河内暁男先生より、丸善に標記1冊が出ている旨通知があった。高額図書の購入として審議をお願いする。」とあり、その後購入が決定された。)

⑥John Hunter, *The natural history of the human teeth : explaining their structure, use, formation, growth, and diseases : illustrated with copper-plates*, London : J. Johnson, 1771.

請求記号：アダムスミス:149 登録番号：5512306746

Mizuta 2000, no.841 ここでは、Unlocated に分類されている。

Smith 1781, 15 葉

2004年2月10日に、丸善より購入。(平成15年度第9回図書委員会(2004年2月4日)の議事録によると、「昨年[2003]末に丸善より打診」があり、購入の検討なされたとのことである。)

⑦Moses Lowman, *A dissertation on the civil government of the Hebrews*, London : J. Noon, 1740.

請求記号：アダムスミス:150 登録番号：5513867043

本書は Mizuta 2000 にも Bonar 1932 にも確認できなかった。2018年2月21日に丸善雄松堂より購入。

#### 【謝辞】

アダム・スミス旧蔵書の伝来、および東京大学経済学図書館所蔵の「アダム・スミス文庫」の分野分類については、有江大介氏(横浜国立大学名誉教授)と野原慎司氏(東京大学大学院経済学研究科准教授)、「アダム・スミス文庫」修復時に携わった職員の情報については、石川一樹氏(東京大学総合図書館・情報管理課専門員)、旧蔵書の追加購入の経緯については、中谷実邦子氏(東京大学経済学図書館・図書受入係長)、修復方法に関する現物調査については、篠田飛鳥氏(一橋大学社会科学古典資料センター貴重書保存修復室職員)の協力を得た。ここに改めて感謝の意を表したい。

本稿は、JSPS 科研費 16K12543 および 15H02786 による研究成果の一部である。

#### 附録 修復前の状態の記録写真と封筒(キャプションは請求記号)

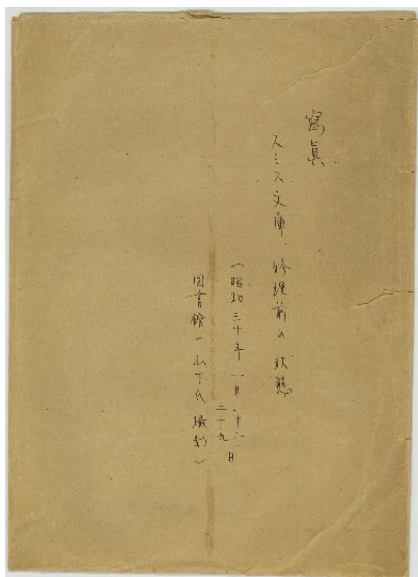


写真3 写真が入っていた封筒



写真4 アダムスミス:3, 19, 20

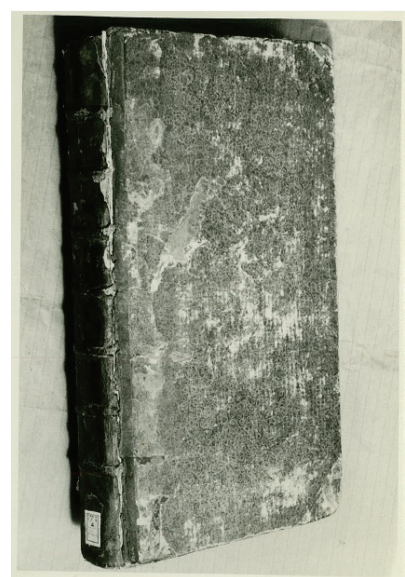


写真5 アダムスミス:4

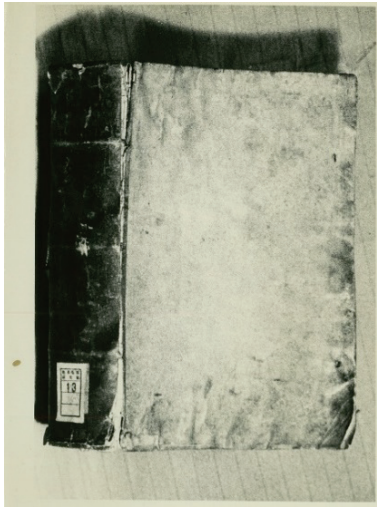


写真6 アダムスミス:13

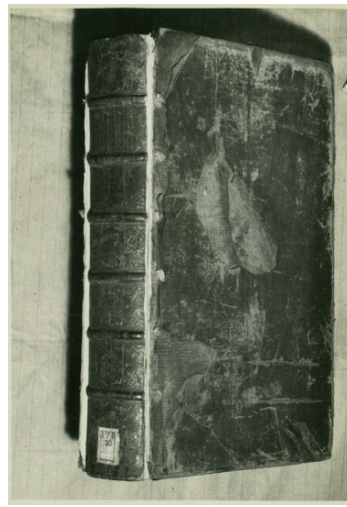


写真7 アダムスミス:30

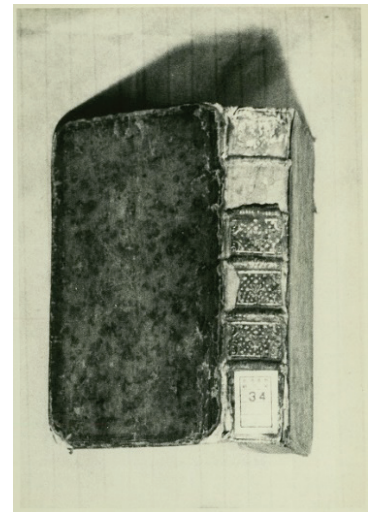


写真8 アダムスミス:34

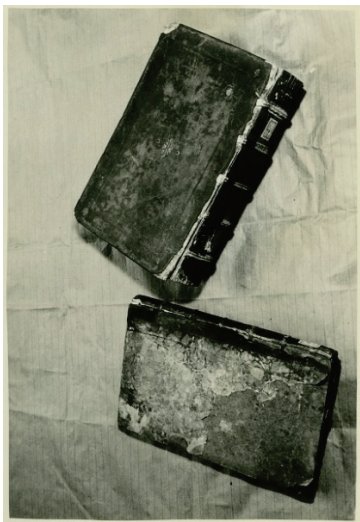


写真9 アダムスミス:36, 49



写真10 アダムスミス:37

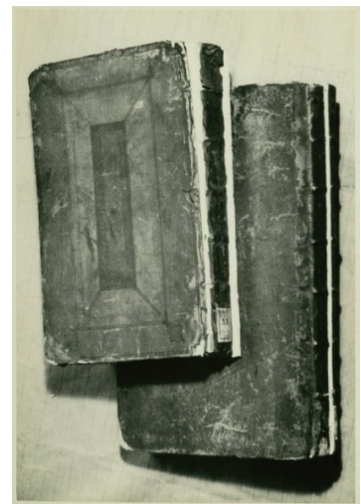


写真11 アダムスミス:40, 59

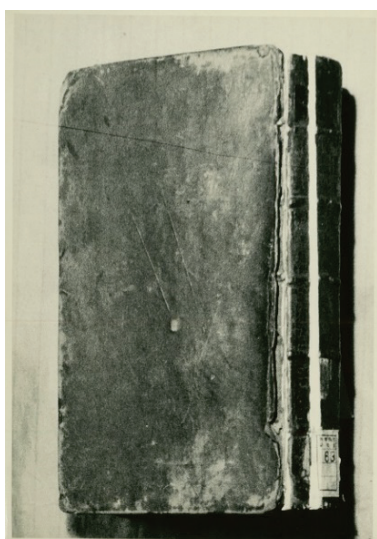


写真12 アダムスミス:63

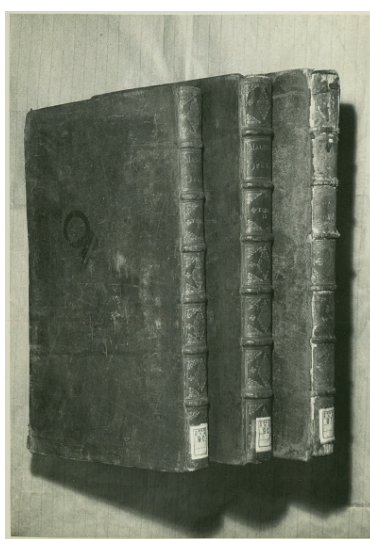


写真13 アダムスミス:90, 91

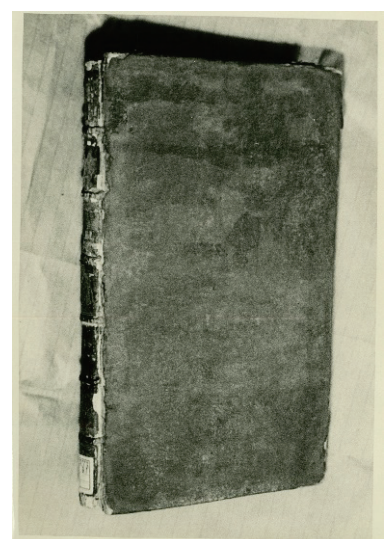


写真14 アダムスミス:91



写真 15 アダムスミス:121

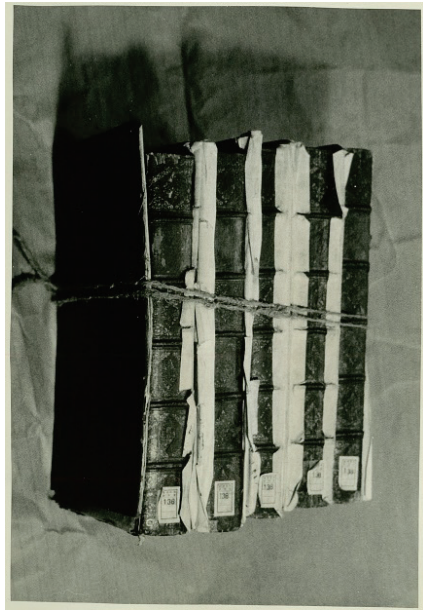


写真 16 アダムスミス:136

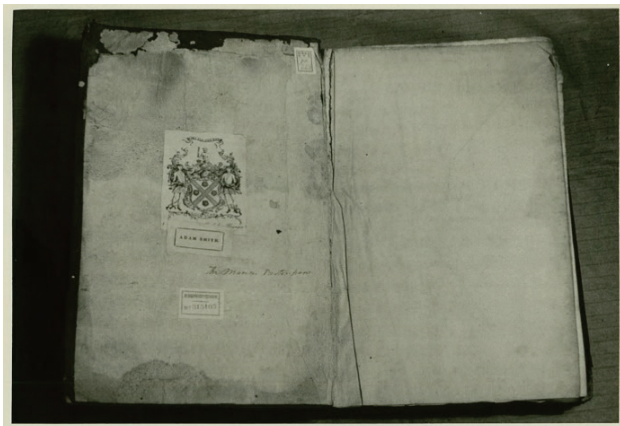


写真 17 アダムスミス:37

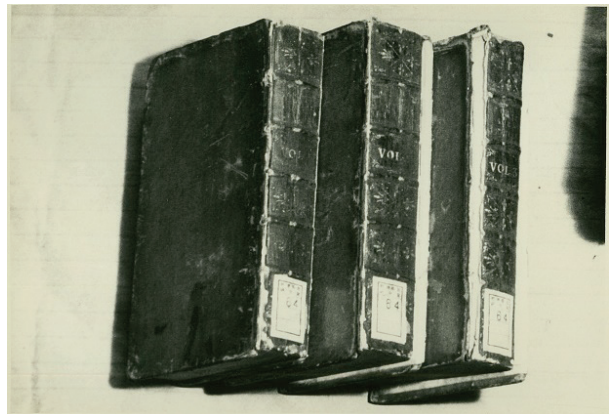


写真 18 アダムスミス:64



写真 19 アダムスミス:19 68, 72, 115, 120, 127, 130, 135



写真 20 アダムスミス:2, 71

